（法第２８条第１項関係）

令和３年度事業報告書

令和３年４月１日から令和４年３月 31 日まで

認定特定非営利活動法人キャリア・デザイナーズ

1　事業実施の成果

昨年に続き、世界中でコロナウイルスの感染が拡大する中、皆様のご支援やご協力をいただきながらコロナ対策を徹底して事業を実施した。具体的なコロナ感染対策として、三密（密集・密閉・密接）の防止、アルコール消毒や換気の徹底、毎日の体温検査等を行った。実施した事業の概要については以下の通りである。

(1) 郡山市受託事業　令和３年度「多様な働き方支援事業」
(2) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」
（社会参加の一環として、シニア・ボランティアとともに共同の軽作業／交流会の実施）
※パブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成により実施
(3) 郡山市「農福連携推進モデル構築事業」への参加
(4) 農作業＋お試しカフェによるひきこもり支援事業
（農作業体験、料理教室・お試しカフェ研修、保護者会を実施）
※休眠預金活用事業として実施。
(5) 三菱商事復興支援財団の助成による「農作業体験を通じた就労支援事業の立ち上げ事業」
(6) 自主事業（居場所活動、ジョブトレーニング、御用聞き、大型セミナー、保護者会等）
(7) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化

それぞれについて以下に述べる。

(1)　郡山市事業「多様な働き方支援事業」

郡山市多様な働き方支援事業の目的は、郡山市を含む「こおりやま広域圏」の不安定就労者、就労困難者及び就労支援希望者を対象に、社会参加と生活基盤安定のため、カウンセリングや職業的自立に向けた就労支援を行うことにより、個人の適性や意欲に応じた多様で柔軟な働き方ができるよう職業的自立に結び付けることである。

当法人として当事業は４年目の受託となり、今まで蓄積された経験・知見を活用して実施した。

最初に、対象者やその家族の相談を受けた後、当事業への参加が妥当と判断した方（実人数 28 名）について、定期的なカウンセリングを行った。加えて、地元の企業に協力をいただき就労体験（8 事業所で実施）、就労準備の支援のための講座（通称「エンカレッジ講座」、パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションのワーク等）を行った。コロナ対策に気を付けて実施した。昨年度に引き続き、相談やカウンセリングで WEB 会議システムに対応した体制を整えた。WEB を通じての相談はなかったが、カウンセリングでは、一部 WEB 会議システムを活用して行った。

年間を通じて、当事者だけでなく家族に対するフォローも随時行った。

当事業参加者のアンケート回答は次のようなものであった（21名回答）。

■「就労する自信がついたか」

・かなりついた：19%

・まあまあついた：48%

■カウンセリングについて

他の活動（例えば、就労体験や講座）などと連動して行った。信頼関係を構築し本人の話を傾聴したうえで、課題の洗い出しや目標の設定、振り返りなどを行った。カウンセリングの内容について、85%が「満足している（42.5%）」「やや満足している（42.5%）」ということであった。その理由としては次の回答があった。

カウンセリングの感想（自由記載）

・将来一人暮らしした時にどのくらい費用がかかるか、何が必要なのか教えてもらうことができた。

・自分で考えるよりは相談に乗ってもらえることで安心した。

・相談して自分はどのようにすればいいのか、アドバイスをもらえたから

■就労準備のための講座（パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーション等）について

原則週1回、公益財団法人安積歴史博物館や地域公民館をお借りして、就労準備の講座を行った。パソコン、ビジネスマナー、コミュニケーションを軸に、キャリア教育や金銭教育などの内容も交えて行った。参加者の感想としては以下のものがあった。

就労準備のための講座の感想（自由記載）

《パソコン》

・パソコン講座に参加して、パソコンスキルが上がった。

・基本的な操作などが再確認できた。

《ビジネスマナー》

・社会に出る上で必要なマナーなどが身についた。

・今までしていた仕事でつまずいたビジネスマナーのルールが分かった。

《コミュニケーション》

・人前で話すことが増え、様々な人と話すのが苦ではなくなった。

・人とのコミュニケーションのコツがわかったような気がします。

■就労体験についての感想（選択式、複数回答）　回答者13名

・体力がついた　　9名（69%）

・生活リズムが整った　　7名（54%）

・働く意欲がわいた　　4名（31%）

・前向きになった　　4名（31%）

といった回答があった。

(2) 「生きづらさを感じているニート・ひきこもり社会包摂事業」

（8 月よりパブリックリソース財団「ふくしま未来基金」助成により実施）

一昨年、昨年に続き「ふくしま未来基金」助成により実施した。継続して実施することで事業の基盤も確立できた。当事業の基本的な考えとして、人見知りの性格や今までのひきこもり期間のために人と一緒にいることが難しい、あるいは、コミュニケーションに不安があるなど、対人とのコミュニケーションに何らかの不安を抱えている方々が、安心した環境の中で他者との交流を深めてスムーズに社会参加できるようになること、また、当事業を経てさらに実践的な就労支援活動に参加できるようになることを意図して次の活動を行った。

① コ・ワーク（ボランティアの方と共に事務所内で内職軽作業の実施）

相談をした直後の方、通い始めの方、他者と話す事に不安を持っている方などを対象に、職員やシニア・ボランティアらとともに事務所内で軽作業を行う活動を行った。他者と一緒に軽作業を楽しくすることで、社会とのつながりや通所習慣の確立による社会参加を意図して実施した。同事業に参加した後に、より実践的な活動（講座やジョブトレーニング）に参加する方も見られた。

② 交流会

季節ごとに、バーベキュー、クリスマス会、新年会、花見会、ふくしま逢瀬ワイナリーの見学といった交流会を行った。バーベキュー会やクリスマス会といったイベントでは、利用者（メンバー）が司会、ゲーム、調理の各班に分かれて担当した。有志でイベントの 1 か月前ぐらいからミーティングを重ねて準備をした。コロナ前はボランティアや協力者をお招きして交流を深めていたのだが、昨年度と今年度はコロナ禍ということもあり利用者と職員に参加者を限定し、コロナ対策を徹底しながら行った。交流会当日や準備を通じて、他者と協力する大切さを実感し、協調性や社会性を養う機会となった。

(3) 郡山市の農福連携推進モデル構築事業への参加

郡山市事業「農福連携推進モデル構築事業」を受託した「公益財団法人フィランソロピー協会」の協力団体として、一昨年度と昨年度に引き続いて農福連携事業に参加した。当事業は 3 年計画で農福推進モデルを構築することを目的とした事業である。当法人は、農業と福祉事業所の間のコーディネートのサポートのほか、当法人の利用者が実際にジョブトレーニングの一環として農業に参加した。3 年間の事業で郡山市やその周辺の農業者や福祉事業者とのつながりやネットワークを強化することができた。次年度以降も郡山市で農福連携事業が根付き、さらに発展するようにできればと考える。

(4) 農作業＋お試しカフェによるひきこもり支援事業

（休眠預金活用事業として、農作業体験、料理教室・お試しカフェ研修の実施）

休眠預金活用による民間公益活動として実施した(資金分配団体:一般財団法人ふくしま百年基金、指定活用団体：一般財団法人日本民間公益活動連携機構)。コロナ禍の中で、社会とのつながり維持や孤立孤独の防止に寄与できるよう、下記の活動を行った。

① 農作業体験：地元の農業者のご協力をいただき、また、法人で借りている市民菜園にて農作業を実施。

② お試しカフェ研修：農福連携による農作物を活用したメニュー開発、また、レンタルキッチンを借りて料理教室やお試しカフェを行った。

(5) 三菱商事復興支援財団の助成による「農作業体験を通じた就労支援事業の立ち上げ事業」

令和4年3月から8月まで、公益財団法人三菱商事復興支援財団よりご寄附をいただき、トライアルとして、一般社団法人ふくしま逢瀬ワイナリーと連携して果樹農業における農作業体験を通じた就労支援事業を実施することになった。福島県の果樹農業6次産業化プロジェクトにおけるワイン用ブドウ等の生産農家が受入先となり、剪定から収穫までの作業体験を通じて、農業に関する一貫した知識・経験を習得する機会を提供するとともに、原料ぶどうの収量増加に伴い人手が不足している果樹農家の作業支援を行うことを目的としている。3月は、ワイン用ブドウの枝剪定や処分のお手伝いを行った。事業の基盤を確立できるようしっかり事業を行っていきたい。

(6) 自主事業（居場所活動、ジョブトレーニング、御用聞き、大型セミナー、保護者会等）

① 居場所活動

通所習慣や人と一緒にいることに慣れることを目的に、ゲームやレクリエーションをする活動を行った。原則毎週木曜日の午後、就労準備のための講座を午前中に行った後、外部講師を招いて、希望者を対象にゲームやレクリエーションをする活動を実施した。卒業生がアシスタント役として参加し、雑学コーナーを担当する姿も見られた。他の人とともに一緒に過ごし、楽しく場を共有することに慣れる機会となった。

② ジョブトレーニング

郡山市事業や民間助成の規定回数を超えてトレーニングを積みたい方向けに、自主事業でジョブトレーニングを実施した。地元企業の協力を得て、ジョブトレーナーが利用者を引率して現場に赴き、原則チームで共に作業を行う形でのトレーニングを行った。自主事業として、年間 454 回、参加者 937 名（実数 27 名）であった。中長期的な視点での参加を通じて、就労に必要な体力をつけること、日常生活リズムの改善、他者と協力して活動することに慣れる、働いていく上での自信や自己肯定感の向上につなげることを意図して実施した。ジョブトレーニングと、その他の活動、例えば、講座やカウンセリングがそれぞれ連動した形で行うことができるよう意識した。例えば、ジョブトレーニングで明らかになった課題について、カウンセリングの際に自己の考えを深める材料とするなど、それぞれの活動がお互いに相乗効果が出るようにした。

③ 御用聞き事業

地域の高齢者世帯など地域で困っているご家庭のご依頼に応じて作業をし、ニートやひきこもり経験者の社会参加・自立支援の一環として行っている。これまで実施したお宅からのリピート依頼、連携町内会からの紹介、口コミなどを通じて、高齢者のみ世帯などで困っているお宅の困りごと（草むしり、物の運搬）のお手伝いをした。今年度で6年目の実施となり、今までに実施したお宅からの依頼も増えてきた。

「御用聞き事業」を楽しみにしている若者も多い。草が生えていた状態から除草してきれいになった状態を見ると達成感を得られるようだ。高齢者の方らからも感謝の言葉をかけられ、自己肯定感や

自信の向上になっている。地域の方との温かい交流を通じて、若者の社会参加・自立支援の一歩として地域に根差した活動を展開することができた。

④　大型セミナー「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」開催

宮本みち子氏（放送大学・千葉大学名誉教授）を講師に招いて、令和 4 年 2 月 26 日(土)に「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」を開催した。今年度も共催団体として、地元企業の福島県中小企業家同友会郡山支部、社会福祉法人郡山コスモス会、コスモス通り心身医療クリニックにご協力をいただいた。第一部の宮本氏の基調講演では、若者の社会保障が親頼みになっている現状や、多様な仕事と働き方の支援の先進事例の紹介など、大変貴重な話を聴く事が出来た。第二部では、宮本氏が会場からの質問に答える形で、活発に議論を深める機会となった。若者の自立に向けて地域で協力・連携していこうという機運の醸成になった。

⑤　保護者会

合計 2 回（令和 3 年 9 月 11 日(土)、令和 4 年 3 月 24 日(木)）実施した。

令和 3 年 9 月 11 日(土)は、講師にシニア・ボランティアの森田善彦氏を招いてお話を伺った。一緒に活動しての感想、利用者の方の活動の様子や成長についてボランティアから見た視点のお話があった。参加した保護者からは「普段の保護者会とはちがう内容でお世話になっているボランティアの方の話が聞けてよかった。」「森田さんのようなボランティアの方の存在についても知れました。」などの感想が寄せられた。

令和 4 年 3 月 24 日(木)に開催した保護者会では、当法人の活動を経て現在仕事をしている「卒業生」や当法人に通いながら一歩を踏み出そうとしている方、ボランティアの方を招き、ざっくばらんに話をする形で実施した。感想として「いろんな方のお話しを聞くことができ参考になりました。」「いろいろな方のケースについて知ることができた。」といったものがあった。

(7) 地域ネットワークの参加を通じての支援協力体制の構築・強化

①　地元企業団体との連携

福島県郡山市中小企業家同友会に引き続き加盟した。同会の障がい者や就労困難者の雇用について考える「障がい者委員会」にも参加した。上記でも述べたように、令和 4 年 2 月には同会郡山支部との共催で、「若者の自立を考える親と地域のためのセミナー」を開催することができた。地元企業の皆様には、就労体験の受入れ、雇用の受け皿として大変お世話になっている。今後も継続して連携を深めていけるようにしていきたい。

②　内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」への参加

昨年に続き、内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に加盟・参加した。同プラットフォームは、国連が提唱する世界の共通目標である「SDGs（持続可能な開発目標)」の国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として内閣府が設置したものである。当法人でも SDGs の理念である「誰一人取り残さない」という考えに沿って、SDGs の 17 ゴールのなかでも、特に、「ゴール 8（働きがいも経済成長も)」、「ゴール 4（質の高い教育をみんなに)」、「ゴール 1（貧困をなくそう)」を意識して事業実施を行っている。今後も、多様な幅広い個人・団体と連携して事業を展開していきたい。

③　地元の子ども若者支援団体との連携

昨年に引き続き、郡山市内の子どもや若者の支援をしている個人・団体で構成される「子ども若者

ネット」に参加した。基本月 1 回、車座会議に参加した。課題が複雑化する中でお互いに情報交換や共有をすることができた。

【総括】

●コロナ禍における事業実施

冒頭でも述べたように、2020 年から本格的に拡大した「新型コロナウイルス」は今年度も収束せず、コロナ禍の中での事業実施となった。コロナ禍の中、当法人にとっては 2 つの側面がある事を念頭に置きながら事業を実施した。一つにコロナ感染予防対策の実施である。三密防止やアルコール消毒の徹底など、コロナ感染予防には細心の注意を払って実施した。また、同時に、WEB 会議システムやインターネットを活用した非接触型の支援について昨年度に続き模索をした 1 年だった。コロナ禍での事業実施に関する二つ目の側面として、ウィズコロナ・アフターコロナの新しい生活様式に対応した支援が必要となることを感じている。コロナ禍や社会変化に伴う雇用環境の変化にも対応した柔軟な発想がより重要になってきている。会社に就職するだけでなく、起業、リモートワーク、短時間勤務、マルチプルワーカー（複業）など、その人の適性・特性と意欲に合った、同時にコロナ禍にも適応・対応できる、それぞれの就労や働き方、そしてそれを実現する方法について柔軟に対象者と共に考えていくことがより必要になってきていると感じている。

●多様で実践的な支援の展開と地域やボランティアの方々との連携

1 年間の事業実施の基本的な方針として 3 つのポイントを念頭に実施した。ひとつは、当法人が安心して通える場所であることを参加者に感じてもらうことである。二つ目に、相談やカウンセリングに留まらず、チームやグループでの活動を重視して事業を展開した。他の人と一緒に活動することで、実際に社会に出た時に社会人の一員としてどのように行動すれば良いのか、実地で学ぶことができるように意図しながら活動を行った。最後に三つ目として、様々な活動を提供し、社会とのつながりを感じてもらうと同時に、参加者が自分の得意な事など自分の長所を理解して将来の進路決定に活かしていけるようにと考えて事業を行った。設立より 14 期を経て、地域の様々な方や団体・事業所とのつながりが構築できてきた。多くの地元企業の皆様には、就労体験の受入れ等多くの支援をしていただいた。ボランティアの皆様にも多大なご協力をいただいた。例えば、通い始めの方らと一緒に軽作業や就労体験をしていただいた。加えて、農福連携事業と連携して農作業サポートをしていただいたケースもある。今年度は、首都圏からネットを通じたボランティア参加希望の方もいらっしゃった。今後、ボランティアの会をより整備・強化して、さらに幅広い市民の方とも連携できればと考える。事業を展開する上でボランティアや支援者などの様々な方のご協力やご支援なくしては充実した事業は展開できない。改めて御礼申し上げたい。

今年度の報告のまとめとして、コロナ禍のなかで今年度も 1 年間無事に事業実施できたことに協力者や関係機関の皆様に重ねて御礼を申し上げたい。本年度の事業と今までの経験を踏まえ、次年度以降も組織の基盤強化を図りながら、当事者に寄り添った伴走者としてより良い支援活動を継続的に実施していきたい。

2　事業の実施に関する事項

I. 特定非営利活動に係る事業

（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動

事　業　名 （定款に記載した事業）	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 （単位：千円）
（1）就労に係る相談業務及び就労支援活動 ①　相談業務	郡山市多様働き方支援事業のうち、対象者の把握及び就労相談に関すること、及びキャリアカウンセリング 郡山市及びこおりやま広域圏内の就労困難者や不安定就労者等の社会参加や就労に関する総合相談及びカウンセリング	(A通年（随時) (B)事務所 (C)職員4名（キャリアコンサルタント）	(D) 郡山市及びこおりやま広域圏内の対象者及びその家族 (E)年間 202 回（インテーク相談57回、カウンセリング 145回)、実人数 51名	
	相談（自主事業）郡山市及びこおりやま広域圏以外の対象者（ニート、フリータなど)	(A)通年（随時) (B)事務所 (C)職員4名（キャリアコンサルタント）	(D)郡山市内在住の対象者及びその家族 (E)対象の若者、就労困難者　随時実施	
②　講座	「就職活動の実施に向けた準備段階の支援」(コミュニケーション、パソコン、ビジネスマナー等の講座（エンカレッジ講座）) 自主事業（4～5月）及び郡山市事業(6月～翌年3月)	(A)通年　原則毎週木曜日開催　年間42日実施 (B)公益財団法人安積歴史博物館、公民館、当法人事務所 (C)スタッフ 4 名（うちキャリアコンサルタント 3名)、外部講師2名	(D)　対象の若者、就労困難者 (E)毎回人数 7名～12名　実人数 20 名（延べ373名）参加	
	当法人利用者向けのパソコン特別講座 （word,Excel,Web サイト作成、css など）	(A)通年 （毎月第2、4、5土曜日） (B)当法人事務所 (C)外部講師1名	(D)対象の若者 (E)毎回 2～3 名程度参加	

③ ジョブトレーニング	「郡山市多様な働き方支援事業」内の就労困難者や不安定就労者等の就労体験	(A)通年 1日につき3～4時間程度　83回実施 (B)就労体験受入事業所8社 (C)職員7名	(D)対象の就労困難者 (E)　実人数17名(延べ127名)参加	
	就労体験（ジョブトレーニング）（自主事業）	(A)通年 （週4日程度） 1日につき3～4時間程度　年間実施回数　454回実施 (B)就労体験受入事業所19事業所（スポット作業含む） (C)職員9名	(D)対象の若者 (E)　毎回　1～4名程度参加 実数27名(延べ937名）参加	
	コ・ワーク事業 無業者の社会参加、通所習慣を身に着けることを目的に、事務所での内職などの軽作業をボランティアの方と行う活動を実施。 毎週火曜日、 4～7月はパブリックリソース財団「令和2年度ふくしま未来基金」、8月から翌年3月まで、同財団「令和3年度ふくしま未来基金」助成により実施。 火曜日以外の開催は自主事業として行う。	(A)通年、原則週1回、年間67回実施（うち19回は自主事業） (B)事務所 (C)職員4名	(D)対象の若者実人数26名(延べ502名)、地域の人々、ボランティア6名（延べ170名） (E)毎回　6～11名程度参加	
	御用聞き事業 高齢者のみ世帯など地域の困りごと世帯などの除草・お宅の不要物の運搬などの活動、 （ニートひきこもりなどの無業者の社会参加、地域の方との交流、自己肯定感向上を目的）	(A)通年　年間12回実施。受益者負担や寄付による自主事業として実施 (B)郡山市内 (C)職員7名	(D)対象の若者、地域住民 (E)当法人の利用者　実人数8名（延べ41名）	
	「農作業体験を通じた就労支援事業の立ち上げ事業」	(A)令和4年3月～8回実施。ふくしま逢瀬ワイナリーと連携し、三菱商事復興支援財団の寄附による事業として実施 (B)郡山市内 (C)職員5名	(D)対象の若者実人数5名（延べ21名)、地域の人々、ボランティア5名（延べ5名） (E)毎回3～4名程度参加	

④　受入事業所開拓	就労体験受入先事業所開拓	(A)随時　定期的 (B)受入企業先 (C)職員2名	(D)(E)対象の若者　不特定多数	
⑤　交流会	全体交流会（当法人利用者、職員、ボランティアの方が集まり、交流を深める会 花見、バーベキュー、クリスマス会など）	(A)通年 実施回数5回 (B)地域の公民館、安積歴史博物館、公園など (C)職員9名	(D)対象の若者、ボランティア、地域の方々 (E)当法人利用者　実人数 21名（延べ73名）参加 地域の人々、ボランティア 10名（延べ11名）	
	エンカレッジ講座（午後）ゲームやレクリエーションなどを通じた集団活動や人馴れの活動	(A)通年　週1回2時間開催 実施回数39回 (B)安積歴史博物館、公民館、当法人事務所など (C)職員2名、外部講師1名	(D)対象の若者、 (E)実人数13名（延べ213名）	19,355

(2) 支援者育成及び地域社会との連携事業

定款の事業名	事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
(2)支援者育成及び地域社会との連携 ① 支援者の育成･啓蒙活動	ホームページ・SNS（Facebook）　更新	(A)随時 (B)当法人事務所 (C)職員4名	(D)(E)不特定多数	
	外部向けニュースレター（いっぽ通信）	(A)2回発行 (B)当法人事務所 (C)職員2名	(D)各連携機関約420部発送 (E)一般、支援者、就労体験関連企業等	260
② 家族会	保護者会	(A)2回（第1回:令和3年9月11日、第2回:令和4年3月24日） (B)第1回: 安積歴史博物館 第2回:小原田地域公民館 (C)職員6名	(D)対象の若者の保護者・家族 (E) 保護者 17名(第1回10名、第2回7名)	38

③ セミナー・研修会の実施及び参加	若者の自立を考える親と地域のためのセミナーの開催	(A)令和4年2月26日 (B)郡山市労働福祉会館（2 階中ホール） (C)職員7名	(D)地域住民、対象となる若者、保護者、支援者、企業関係者、行政関係者等 (E)セミナー参加者71名	294
④ 地域社会とのボランティア活動等	地域のお祭りやイベント等へのお手伝い参加	(A)随時 (B)郡山市内 (C)職員2～4名	(D)市民 (E)不特定多数	0

(3) 上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般

定款の事業名	事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
(3)上記に記載する以外のキャリア形成に係る事業全般 ① 心のケアーに係るカウンセリング	・ニートフリーター状態の若者又はその家族の相談窓口の設置（メール、電話、面談等）就職相談、カウンセリング、心のケアー等を行う） 手段：電話、メール、面談、家庭訪問	(A)通年（随時） (B)当法人の事務所 (C)職員3名	(D)対象の若者及びその家族 (E)郡山市及びその近辺の住民、若年無業者・保護者、当法人利用の若者約40名・保護者	
② 就職に係る相談業務	履歴書作成指導、面接練習等	(A)通年（随時） (B)当法人の事務所 (C)職員3名	(D)対象の若者 (E)当法人利用の若者	0

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

定款の事業名	事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
(4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業	「こおりやま子ども若者ネット」の参加　郡山市及びその近辺の子ども若者支援団体のネットワークへの参加	(A)定例会議（車座会議）に原則月1回参加 (B)郡山市内 (C)職員1～2名	(D)対象の若者、地域住民 (E)同ネット参加者、毎回約15～20名	0

	郡山市農福連携推進モデル構築事業への参加（コーディネート業務のサポート）	(A)随時 (B)郡山市及びその周辺 (C)職員５名	(D)対象の若者、農業者、福祉事業所 (E)郡山市及びその周辺の農業者、福祉事業所、就労弱者（障害者やひきこもり経験者など）	1,980
	開成山公園 Park-PFI 事業に関してNPOや企業との連携	(A)随時 (B)郡山市内 (C)職員２名	(D)郡山市民 (E)不特定多数	0

以上